



▲詳細はこちら

あがれ！みんなの想い 夏の 夜空に咲く大輪の花 第47回 東海まつり 花火大会

今年、東海村は発足70周年を迎えました。この歴史的なお祝いしたいとの想いから、連日・連夜、東海まつり実行色とりどりの花火が東海村の夜空を染め上げ、皆さんの思い出となるよう準備を進めています。

節目を7,000発の花火とともに委員会の方々が中心となって、とって忘れられない特別な夏

8/10日
19:00~
久慈川河川敷運動場

【問い合わせ】▽本特集に関すること…地域戦略課広報・シティプロモーション担当(☎282-

1711 内線1339)▽東海まつりに関すること…東海まつり実行委員会事務局(☎287-0855)



野村花火工業(株)
代表取締役 野村さん

今年の東海まつり・花火大会は特別な夜を演出します
年齢や性別を問わず、みんなが楽しみにしている夏の風物詩「東海まつり」。
例年7〜8月に花火大会とイベントが開催されていましたが、近年の猛暑による影響を考慮して、今年は、花火大会を8月10日(日)、イベントを10月25日(土)に開催します。
さらに、今年が村発足70周年。そんな節目の年をみんなでお祝いするため、会場を久慈川河川敷運動場に移し、例年は2000発の花火を打ち上げていたところ、今年はなんと7000発に拡大。約1時間にわたり、音と光の祭典が繰り広げられます。
今回は、この一大イベントの企画・運営を担っている「東海まつり実行委員会」の橋本秀也会長と照沼正輝花火部長にお話を伺うとともに、花火部会の皆さんと一緒に野村花火工業株式会社を訪ね、花火師の皆さんの想いも取材してきました。

がんばれる原動力は？

「何としても8号玉の花火を夜空に打ち上げたい」との強い想いから、昨年の花火大会の余韻に浸る間もなく、場所の選定やタイムスケジュールなどの具体的な検討が始まっていったそうです。

久慈川河川敷運動場で開催するのは今回が初めてであり、会場のレイアウトや安全性の確保、交通規制、地元住民の方々のコミュニケーション、農家さんとの関係づくりなどクリアすべき課題は先が見えないほど山積みだったそうです。

「壁があるなら、みんなで乗り越えていけばいい」

これまで培ってきた経験と持ち前のチームワークで前に進み続ける実行委員会の面々。そこまで頑張れる力の源をお聞きしたところ、「やっぱり生まれ育ったこのまちが好きだから!」という気持ちのいい答えが返ってきました。

東海村は第二の故郷

愛着につながり、『この村が好きだ』と言える大人に育ってくれと信じています。そしていつかは一緒にまつりを作り上げる仲間になってくれたら最高ですね」

毎年、東海村の夜空に花火を打ち上げ、見上げた人のすてきな思い出を作り出してくれているのは、野村花火工業株式会社です。東海村と代表取締役の野村陽一さんには、母方のご実家が舟石川というご縁があります。これまで数々の全国大会で優勝を飾るなど、日本を代表する花火師として、今でも現役で現場に立ち続けている野村社長は「東海村は言わば第二の故郷。みんなの喜ぶ顔が見たいと毎年、社員一丸で気合を入れていますよ」とお話ししてくれました。

こどもたちもイベントをつくる仲間に

『この特別な花火大会を子どもたちと一緒に作りたい』

例年は、翌朝のごみ拾いボランティアとして、中学生・高校生に声をかけていましたが、今年は、イベントそのものを一緒に作りたいと思っています。お客さまを迎え入れる準備として、いすを並べたり、カラーコーンを運んだり、会場設営そのものに参加することで、この花火大会を大人たちと一緒に作り上げたという思い出が子どもたちに残ってほしいと思っています。



東海まつり実行委員会
花火部長 照沼さん 会長 橋本さん

今年の目玉は8号玉の70連発

「花火もいつも同じでは飽きられてしまう。昨年よりも今年。日々研さんです。何年たってもきっちり丸く花火を開かせる難しさを感じています」とお話ししてくれた野村社長。みんなの記憶に残る花火大会とするため、今回特別に仕立てている二つの見所を教えてくださいました。

一つ目は、「8号玉の70連発」。8号玉は上空約250メートルまで上がり、直径約220メートルもの大きさで開く大輪の花火です。例年の花火大会で一番大きい花火玉は4号。こちらが直径約80メートルということ、いかに大きい花火が打ち上がるのか想像できると思います。その大輪の花火が70連発で上がり続ける迫力の光景は今からワクワクしますね。

二つ目は、河川敷というロケーションを最大限に生かし、約200メートルの間に複数設置される拠点から打ち上がる「ワイドスターマイン」。目の前いっぱい広がる地上と夜空のコラボレーション。花火と音楽がシンクロする瞬間も見逃さないうでほしいとのことでした。

さくすく

「花火の魅力は『一瞬の輝きとはかなさ』。この日だけは頭の中を空っぽにして東海村の夜空を見上げましょう。この花火が、70周年をお祝いする特別な夜を演出するとともに、東海村が未来に向かって歩き出す新たな一歩となればうれしいです」と野村社長からメッセージをいただきました。



野村花火工業(株)
小森さん

また、毎年東海まつりの花火大会を取りまとめているのは小森裕士さん。入社8年目ながらすでに数多くの現場を任されているのは、野村社長の信頼の証し。そんなお二人に、今年の花火大会の見所をお聞きしました。